

【From Kobe 2013年8月】

ひまわりの夏の便り



あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

「NHK 朝一番 ビジネス展望 内橋克人氏の『働き方の多様化とは何か』解説」を紹介
日本社会全体に言葉とほうらはら 創造性のない時代 異常気象にだまし絵をダブらせて

2013. 8. 1. by Mutsu Nakanishi from Kobe

一枚の絵が眺める人の心理状態によって 幾通りかの絵に見える絵を「だまし絵」といい、何回がこのだまし絵について触れたことがある。「即物的に見た」といっても その見た人の心理状態によって、見えているものの危うさによく注意せねばならぬと。

先日 高校時代の仲間が自分の研究中の「哲学」についての著書を送ってくれたのですが、そんな難しい本など歯がたためだろうなあ・・・と気楽に読みはじめたのですが、面白い。

「哲学」「心」というのは、「本能」といった一面的なものでなく 人が生きてきた過程の中で
それぞれが作り上げたもの。したがって、「日本人の心」・「日本人の哲学」といっても 複層
的なものとして捕らえるべきものだ。欧米の人の考え方も同じだ。

このことを頭に入れて思考することが大切と繰り返し数多くの事例を引いて述べられていた。

難しい内容は別にしてあれあれ・・・と。

「哲学って 揺るぎのない真理というか 確固たるひとつのもの」と思っていたのですが、そんなものか。

難しいものと思っていたのですが、案外私たちの身近な考えの中にあると気楽に思えたのは収穫。

また、「だまし絵」の見方と一緒にやなあ・・・と。

だまし絵をちらつかせての参議院選挙が終わって、自民党の圧勝。 また、政治の向かう価値観の急転が心配になる。
小泉内閣の規制緩和・国際競争・グローバル化で一般庶民を窮地に追いやった人たちが、ブレーンとして復権し、 声
高にアベノミックスを叫んでいるのにはもう沢山だと。

「だまし絵」を知っていて「見抜けなかった」と価値観を転換させた言い訳 言い逃れの隠れ蓑として、あまりにも多い「想定外」「経験したことがない」との勝手な納得。

これで物事を済ませてしまう風潮を作り出した人たちでないか・・・。

言葉の遊びで切り抜けてしまう創造力の欠如が、数を頼み、「スピードだ グローバルだ」と押し進んでゆく。

そんな累々とした失敗が、ここ数十年続き、ものづくり日本の遺産も働きもので勤勉な日本人の特質も見失い、格差の小さい社会ももはや過去のものになってしまって、そこには理念も信念もないセツナに縛られた弱肉強食の競争社会まっしぐらである。だまし討ちに会わぬ創造的な社会形成が今ほど必要なときはない。

「想定外や経験したことがないのは異常気象だけでない」

社会みんなが、そんな言葉で思考を停止していると思える最近の社会状況。

親方日の丸・グローバルな大企業や銀行・金融がわれわれの生活を守ってくれるのだろうか・・・。

きっちりとしたプログラムを打ちたてて創造的な展開を進めないと日本は益々おかしくなるのではないか・・・

もう楽観的には見ておれぬところでのアベノミックス。「明日はわが身」が迫り来る。

「だまし絵」発想を打ち破らねば・・・。 さしずめ、それを見抜かねば・・・と。

そんなおり、7月16日早朝 NHKラジオ 朝一番 ビジネス展望 『働き方の多様化とは何か』

内橋克人さんのビジネス解説 実に明快分かりやすい解説に 私には一番すっと入ってくる話であるになるほどと。

◎ 多様な働き方・雇用・労働の多様化 「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う

◎ 正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。

「日本ではこれが、ごっちゃにされて 都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。

同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、

「 国際競争力をつけるようなグローバル スタンドアードが 非正規雇用を増やすことだとの錯覚を

日本では植えつけられているが、けっしてそんなことはない 」と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎ 例えば、『オランダモデル』の例示

同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。

均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の2種類しか労働は存在しない。

まさにだまし絵のなぞ解き いつもながら 私には一番納得できる筋道である。

今や 技術力・ものづくりが群を抜いているなど幻想に過ぎなくなっている日本。

創造力のない目先だけの金融中心の効率・大量生産・使い捨て経営が日本の物づくり現場を打ち壊してきたのはもう否定できない事実である。もっとほかにやる道はなかったかと自答するのですが・・・

アベノミックスもまたぞろ そんな反省もないグループの復権に見えて仕方がないのは私だけか??。

皆さんにはどう見えているでしょうか・・・いずれにせよ、東京中心主義を脱却して 落ち着いた世に早くなってほしいものです。

参考1 昨年10月に全国を対象に実施された『今、日本人はどのような環境で働いているのか』調査ではパート・派遣などの非正規で働く人の数が、2043万人と、初めて2000万人を突破し、雇用全体に占める割合も38.2%、つまりほぼ4割程度に達していると聴く。

◎ 20年前に比べると、非正規で働く人の数は、ほぼ2倍にまで増えている。

◎ 正社員だった人が転職するとその内40%以上が非正規で働かざるを得なくなっている。

◎ 25歳～34歳の若者層では、3人に1人以上の人が非正社員である。

高校や大学を卒業する時の厳しい就職環境を引きずったまま、働き続けざるを得ない。

こんな状況で雇用不安を感じない人たちって・・・どんなグループだろうか・・・

政党公約だった非正規雇用をなくす方向は今やどこかで消えてしまっている。これもだまし絵だったのか・・・

(上記新聞記事の判読できる大きさへの拡大版を下に掲載しています)

*****「心の病 会社員 2 割増」*****

心の病 会社員2割増

リーマン後3年 本社推計

心の病にかかるサラリーマンが増えている。大企業の社員約1600万人が入る「健康保険組合」では、受診数が2011年度までの3年間で2割増えた。仕事のストレスが原因となる病気が大半。08年のリーマン・ショック後の景気低迷で、企業のリストラが進み、雇用不安が広がったこの指摘が出ている。▼3面におびえて働く

「雇用不安」との指摘

厚生労働省がまとめた医療保険の利用状況調査から、働き手本人が心の病で通院や入院した件数をもとに、朝日新聞が推計した。財政難に陥り解散する健保が広がったこの指摘が出ている。▼3面におびえて働く

組合が相次ぎ、全体の加入者数は年々減っているため、加入者1千人あたりの受診件数で比較。現在の調査方法になった08年度以降を対象とした。

心の病による受診件数はリーマン・ショックのあった08年度は1千人あたり延べ235件だったが、3年後の11年度は280件と19%増。心の病以外の病気

心の病に加入する働き手本人の、1千人あたりの延べ受診件数の合計。厚生労働省の「医療給付実態調査」をもとに推計

4910 4982 4991 4604
全体の受診件数

心の病気

年度	心の病気	その他
08年度	235 (31%・55%)	166 (36%・55%)
09	258 (32%・55%)	172 (37%・54%)
10	277 (32%・54%)	180 (39%・54%)
11	280 (32%・54%)	192 (40%・54%)

神経症性障害
気分障害

11年度の心の病の内訳はうつ病などの「気分障害」が54%で最多。パニック障害などの「神経症性障害」と合わせて、長時間労働やストレスと関係が深い。

やけがも含めた受診件数は3年間で8%増え、心の病が全体の倍以上のペースで増えている。

精神障害による労災認定の件数は、10年度以降年間300件を超す高水準。関西大の森岡孝二教授「企業社会論は「リーマン」後、正社員の間でもリストラによる雇用不安が広がった。人が減るなかで多くの働き手が長時間働き、過労ストレスが高まっている」とみている。(牧内昇平)

病気が8割超を占める。世代別では40代が33%と最多で、30代も3割を超えている。20代と50代は10%台と少なく、働き盛りの年代で受診の多さが目立つ。

一方、中小企業の社員約2千万人が入る「協会けんぽ」加入者1千人あたりの受診件数も、比較できる09年度と比べ9%多かった。健保組合の方が増えた割合が大きいのは、中小より大企業の方が受診をうながす態勢が整っているためとみられる。

心の病におびえて働く

「職場にばれたらクビかも」

サラリーマンの心の病が増えているのは、長時間労働やリストラへの不安が、働き手をメンタルヘルス（心の健康）の不調に追い込んでいるためだ。本人によるケアはもちろん、上司や同僚が周囲の不調のサインを見逃さないことが大事だ。

▼1面参照

介護施設で働く東京都内の40代男性は2年前、うつ病と診断された。前の職場で、上司から毎日「辞めてくれ」と言われ、同僚のミスも自分のせいになされた。疲れているのに眠れず、毎晩酒をあおった。台所で包丁を握って首にあてているのを、妻が泣きながら止めた。1年間の休職をへて今年3月、会社をやめた。4月に介護スタッフとして再就職したが、いままも精神科に月1回通院し、抗うつ薬を飲んでいる。前の職場で上司から吐かれた場面を思い出し、1日に数回、気分が悪くなる。だが、職場では薬は飲めない。「うつ病の薬を飲んでいことが職場にばれたら、クビになるかもしれない。いつもビクビクして働いている」と語る。

サラリーマンの心の病が増えているのは、バブル経

あなたのストレス度は？

- ☐ 非常にたくさんの仕事をしなければならぬ
- ☐ 時間内に仕事が処理しきれない
- ☐ 一生懸命働かなければならぬ
- ☐ かなり注意を集中する必要がある
- ☐ 自分の部署内で意見の食い違いがある
- ☐ 自分の部署とほかの部署とはうまく合わない



東京医科大「職業性ストレス簡易調査票」から抜粋。中央労働災害防止協会のホームページで自己チェックできる
http://www.jisha.or.jp/web_chk/strs/index.html

済崩壊後の1990年代から指摘する声もある。過去30年ほどの医療保険の利用状況を調べた神戸大学大学院の山岡順太郎研究員は「心の病の受診は90年代後半から増え、最近10年間で倍増した」と語る。

「自分の心と体との対話を、毎日心がけています」うつ病を抱えながら、NPO法人で働く千葉県の50代男性は語る。発症したのは、出版社で働いていた13年前。担当する雑誌や単行本の数が急に増え、毎日3時間ほど残業していた。帰宅後も仕事のイライラがおさまらず、不眠に悩まされた。病院で「抑うつ状態」と診断され、出版社を辞めた。3年間の自宅療養をはき求められる。（牧内昇平）

7月16日早朝 NHKラジオ朝一番 ビジネス展望

『働き方の多様化とは何か』内橋克人 2013.7.16.

内橋克人さんのビジネス解説 実に明快分かりやすい解説に

私には一番すっと入ってくる話になるほどと。

- ◎ 多様な働き方・雇用・労働の多様化（働き方の多様化）と「働き方の多様化」は違う
- ◎ 正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。「日本ではこれが、ごっちゃにされて 都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、

「国際競争力をつけるようなグローバル スタンダードが非正規雇用を増やすことだとの錯覚を日本では植えつけられているが、けっしてそんなことはない」と

と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎ 例えば、『オランダモデル』の例示

同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。

均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の2種類しか労働は存在しない。